

# 株式会社 プロテクトィア

http://www.protectea.co.jp/

所在地 大阪府茨木市美穂ヶ丘8-1 大阪大学産業科学研究所内 インキュベーション棟 1213室 TEL&FAX 06-6155-8553 06-6155-8530  
代表者 代表取締役 田中 伸幸 創年月日 2010年6月21日 資本金 1,040万円 従業員数 1人

## 事業内容

株式会社プロテクトィアは、大阪大学産業科学研究所の研究成果である新規カテキン誘導体“CateProtect®”の実用化を目指して設立された大学発ベンチャーである。CateProtect®は、緑茶抽出物より得られたエピガロカテキンガレート(EGCG)に脂肪酸を結合させることにより病原体膜への変性活性を飛躍的に高めた誘導体で、天然由来成分をベースにした高い安全性と、優れた抗ウイルス活性・抗菌活性を併せ持つ。同社はNEDOやJSTの助成事業を活用し、作用機構の解明や有効性の検証、毒性試験等の研究開発を進め、2014年にインフルエンザ等の感染症対策部材である高性能マスク「カテプロテクター」の販売を開始した。2015年には同社の不織布フィルター「CateProtect®加工フィルター」が繊維評価技術協議会(JTETC)の新規格であるSEK抗ウイルス加工マークを取得するとともに、大阪大学とのコラボレーションにより限定パッケージマスクを作成するなど、積極的に展開を進めている。また、学術研究で培われた最先端の計測方法と、抗ウイルス部材開発の過程で蓄えてきたノウハウを組み合わせ、抗ウイルス・抗菌部材の活性評価受託サービスも開始。カテキン誘導体を初めとした、新たなウイルス感染症対策部材の研究開発体制を整えている。



CateProtect®は、幅広い分野の製品への展開が可能



抗ウイルス加工マスク「カテプロテクター」

## 知的財産活用事例

新規カテキン誘導体である膜親和性EGCG“CateProtect®”は様々な分野で応用可能であり、抗ウイルス、抗菌、抗アレルギーなど、各種用途を想定した特許網を構築している。各特許の権利関係については、大阪大学との関係や各分野の事業戦略等を踏まえ、大阪大学から権利譲渡を受けるケース、大阪大学から独占実施権を付与してもらうケース、自社出願して単独で権利を保持するケースなど様々である。株式会社プロテクトィアでは、このような特許網を構築することにより、カテキン誘導体開発のトップランナー企業として、他社が追従できない事業環境を整備している。また、海外への事業展開を視野に入れ、外国特許も積極的に取得しつつ、特許に関する意識が高い海外企業との交渉を重ねている。現段階では雑貨や化粧品などの事業展開を行っているが、最終的には医薬品展開を見据えており、今後も特許・知財の積極的な活用を行っていく。

## 知的財産の創出や活用に関する取組

公開されている特許情報によく目を通して、他社特許の存在に留意した効率的な研究開発に努めるなど、特許情報を様々な場面で有効活用している。例えば、抗ウイルス・抗菌製品を製造する大手メーカーの特許情報を調査することで、その企業が抱える技術課題を把握することができ、それを新規カテキン誘導体CateProtect®で解決することができれば、大手メーカーに対して技術提案ができ、これが新たなパートナー企業を獲得するための有効な足がかりとなる。また、競合他社の特許情報が、自社の新規カテキン誘導体の改良のヒントに繋がることもある。

新規特許出願や審査対応においては、有効な権利を取得するために、技術面だけにフォーカスしすぎないように、経営方針や事業戦略との関連性も十分踏まえて検討している。また、新技術のブランドを確立するために商標登録をし、自社の技術や製品をPRする際に活用している。

## 起業を目指す人への知的財産に関するアドバイス

自社のコア技術は一つだとしても、それを一つの特許のみで守り切れるのかどうかは十分に検討すべき。多くの場合、一つの特許では技術を完全にはカバーできずに抜けが発生してしまい、それが原因で業務提携やライセンス交渉などが頓挫することがある。そのため、一つの特許のみに頼らず、追加の研究開発の成果も適宜特許出願し、特許群を構築することが望ましい。